

: ° ☆。 , :: ★。 , :*: ° ☆。 , :*: ° 。 , :*: ° ☆。 , :*: ★。 , :*: °



みらいこども園

2月号

2020年2月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

: ° ☆。 , :: ★。 , :*: ° ☆。 , :*: ° 。 , :*: ° ☆。 , :*: ★。 , :*: °

協応動作を意識して

暦の上では、節分を終えると春を迎えます。今年は暖冬ということもあり、寒さが厳しい日が少なく、子ども達の楽しみの1つでもある積雪も無く、早々に梅の花の便りも届いております。

さて、最近の子ども達の様子に目を向けると、年長組は、小学校就学の意識が芽生え、ランドセルや机、どこの小学校へ行くか話題が増え、仲間意識も強くなり、どこことなく逞しさを感じます。年中組もパワフルで我が道を進むイメージですが、もうすぐ年長組になるという嬉しさからか、物事を理解し行動する姿を垣間見ることがあります。年少組も伸び伸びと生活を楽しんでいる中にも約束やルールが分かってきて、友達同士注意し合う姿も見られ、1つのことに集中する時間が長くなってきました。乳児クラスも、動きが活発になり、ことばや出来ることが増えたことから、人に伝える喜びを感じて、とても表情が豊かになっています。

先日、脳科学の研修に参加したところ、乳幼児期の『協応動作』を意識した生活や遊びを取り入れると、脳からのネットワークが増え、各分野の機能の発達が良くなることを学びました。『協応動作』とは、一つの動きをしながら、同時に別の動きをする動作のことで、日頃からの「みらいこども園」の生活を振り返ってみると、一つの行動をしながら同時に違う動きが出来る遊びや活動を数多く行っていることに気づきます。例えば、縄跳びも、手を回しながら跳ぶということで、十分協応動作が働き、最近では、1000回以上も続けて跳べた園児もいるなど、持久力及び身体能力（足腰の運動力）、脳への集中力がかなり養われています。

また、はさみを使って物を作ることも、物のバランスを見ながら紙を切る動きも協応動作で、頭で考えながらもものを組み立てていく想像力が発達し、試行錯誤することで、脳からのネットワークが構築され新しい発見が生まれます。さらに、タオルやカバンを掛ける動作は、対象を見ながらフックにかけるので、脳にしっかり刺激を与えます。はじめはうまくいかなくても何回か繰り返して行うことで自然に出来るようになります。このように乳幼児期には、脳に刺激を与えるような活動がとても大切です。ご家庭でも出来ることは、なるべく手を出さず時間がかかっても子ども達の力で言うように心がけて行きましょう。

そして、子どもは大人よりも環境による刺激を強く感じています。上述した脳の働きを効果的にするには、整理整頓がとても大事です。物があふれた環境の中だと一度にいろいろなものが目に入るので、「イライラする」「集中力がなくなる」といった状況にもなりかねません。私たち保育者も日頃から、保育室の整理整頓に気を配り、子どもにとってのより良い環境を整え、各機能の発達を助けていきたいと思っております。

1週間後は、「ワクワクひろば」「ワクワクげきじょう」がごぞいます、それぞれの成長をご家族の皆さまと共に感じ取れたらと心から楽しみにしております。

